

代 表 者

行 政 視 察 報 告 書

平成 30 年 11 月 16 日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

沖 田 範 彦

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

平成 30 年 11 月 1 日 (木) ~ 2 日 (金)

2. 調査項目

宮城県仙台市 ゼビオアリーナ仙台について (施設視察)

埼玉県川越市 インバウンド戦略について

3. 参加議員

沖田範彦議員

宮城県仙台市内（施設視察）

■調査項目

ゼビオアリーナ仙台について

■調査対応者

ゼビオアリーナ仙台

佐藤 創アシスタントマネージャー

■調査期日

平成30年11月1日（木）午後1時30分～

■調査目的

本市にはない多目的スポーツやエンターテイメントアリーナを視察し、将来的な本市のスポーツ振興施策に反映させるため

■視察内容

当該施設は、東日本大震災の前に計画されていた。震災により計画は遅れたが、震災復興への第一歩として位置付け、被災者を元気づけ地域の再興・復活のシンボリック施設として着工、建設された。

文化庁の推進する「スタジアム・アリーナ改革指針」に基づき、民間企業が仙台市の土地を賃借し、建設、運営を行っている。

建設費用は当初、32億円程を予定していたが、実際には約45億円を要したようである。収益を重視しなければいけないため、官ではできないコスト削減を行っており、それでいて無駄を省いた効率性の高い施設となっている。アイススケートを初め、バスケットボール、バレーボール、フットサルなどの競技や、音楽イベントとして活用されており、年間の利用者数は約70万人となっている。

当該施設は民間企業が建設したものであるがために、収支等については答えてもらえなかったが、仙台市のイメージアップに寄与するとともに、仙台市民にとっても様々な分野で活用されており、利便性の高い施設となっている。

施設は仙台駅より1駅東京寄りで、アクセスの良い場所に位置している。

■呉市での展開の可能性

今、このような施設は、市民・県民にとって必要不可欠な施設であり、スポーツ、文化活動を活発にしていくものと考えられる。

呉市には、中途半端な利活用となっている天応のポートピア跡地に建設できればJR呉ポートピア駅に近く、交通の利便性も高く、呉市内だけでなく広島市の人達も呼び込めるものと考えられる。

若者には活用してもらえるものと痛感したところである。

埼玉県川越市

■調査項目

インバウンド戦略について

■調査対応者

川越市観光課

小高 慎太郎 副主幹

■調査期日

平成30年11月2日（金）午前9時～

■川越市の概要

人口：353,241人

世帯数：158,017世帯

■調査目的

近年注目されているインバウンドの先進市でもある川越市を視察し、その賑わっている取り組みを参考にするため

■調査内容

【川越市からの説明】

1. 観光客数

平成20年より、入込数は600万人を越え、平成28年にはユネスコ無形文化財遺産登録がされたのが影響して704万人を記録している。

2. 外国人観光客

昨年は197,000人で平成27年が11.9万人、平成28年が17.1万人と右肩上がり増加している。

3. 内訳

台湾、タイ、香港、インドネシアとアジア方面から多く、中でも台湾が40パーセントを占めている。イスラム教徒も増えており、礼拝所を観光会館内に用意している。また、イスラム対応ができる店舗が10店舗ある。また、女性客が6割程度を占めている。

4. 観光事業の取り組み

①インバウンド発信事業として

東京から1時間内の距離にあり、JR、東武、西武の鉄道が乗り入れている。この3社との連携をとりながら、毎年10万部のフリーペーパー（外国人向け）を発行し、都内の駅やホール、バス会社等に配付している。また、国内、海外旅行博への出展を県の支援を最大限活用しながら、

香港、台湾、タイで行っている。

さらに、アジア向けプロポーション映像を台湾、インドネシア、ベトナム、シンガポールで放映し、川越市のPRや川越まつりの告知を行い、約4,688万人が視聴し、大きな効果を得ている。

⑧受入環境整備事業として

- ・「旧山崎家別邸」への誘客に、チラシや案内板を多言語化し、バス停も4カ国語で標示している。
- ・オリックスと提携し、全国300カ所（観光案内所）にQRコード・NFCを設置している。今後は、シダックスのICタグの活用を考えている。
- ・川越・フリーワイファイの設置を1カ所70万円～80万円の費用で市作業のもと行っている。
- ・市内周遊バスの運行を、イーグルバスと東武バスの2社行っている。

⑨地方創生交付金事業として

- ・旧山崎家別邸プロジェクションマッピング
- ・恋とれ in 小江戸川越
- ・夜寄るマップ
- ・鉄道3社共同事業（周遊型イベント） を行っている。

5. 主な観光客誘致イベント及び場所

- ・10月に行う「川越祭」は2日間で96万人
- ・川越氷川神社「風鈴まつり」 30万人
- ・時の鐘 400年前から1日4回時を知らせる
- ・蔵造りの町並 「残したい日本の音風景百選」環境省
- ・川越城跡
- ・喜多院
- ・新河岸舟遊
- ・夜の観光振興
- ・菓子屋横丁 「かおり風景百選」

6. 川越市の特産品

- ・さつまいも
- ・うなぎ
- ・川越太麺やきそば（B級グルメ）

7. 課題と取り組み

宿泊所が少なく滞在型を求めるには無理がある。（外国人の中にはラブホテルを紹介して欲しい人がいる）そのため、来訪者をいかに長時間市内に滞在してもらうかに着目し、夜の観光に力を入れている。「食と音と灯り

の融合 Kawagoe REMIX」をテーマに様々な取り組みを企画している。
東京オリンピックでは、ゴルフ競技が行われるため、今後ますます「おもてなし」の精神でお迎えできるよう、語学ボランティア等の活用を活発化させたいとのこと。

【呉市での展開の可能性】

アジアからの訪日客が増えている今日、呉市のもつ多様性に磨きをかけるよう取り組んでいかなければならない。歴史と自然美においては決して負けないものを有しており、特に御手洗大長をはじめとする「とびしま」地区に力を入れていくべきと考える。

呉市街地は「夜の観光」に力を注ぎ、「あかり」による魅力向上に取り組みたいものです。

宮島をしのぐ観光客数（700万人）には驚いたが、そのための「仕掛け」に力を入れていることに注目したい。「がんばろう・呉市」